

# 令和4年恵那市の主要ニュース

## 1. 新型コロナウイルス感染症の拡大や物価高騰に対する取り組み

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響や、ロシア・ウクライナ情勢による原油価格や物価の高騰が続き、市民生活にも影響が出た。市では、できる限り市民の声を聞き、国や県とも連携を取りながら、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金、子育て支援商品券事業、小規模企業者原油価格等高騰対策事業などを行った。

ワクチン接種は、国の方針に沿って順次拡大し、1月に3回目接種、3月に小児接種、5月に4回目接種、10月には5回目接種と乳幼児接種を開始。希望する方が接種できる環境を整えた。接種率は12月6日時点で3回目接種を終えた方が79.7パーセント、4回目は49.4パーセント、5回目は15.9パーセント、小児の2回目接種は31.1パーセント、2回目接種は7.6パーセントまで到達している。

一方で、感染拡大の波を繰り返す中でも、感染症対策を行いながら、社会経済活動を止めることなく進めてきた1年だった。ゴールデンウィークや夏休みには少しずつ地域の祭りが戻り、秋のみのじのみのり祭にも、待ちわびた大勢の方が訪れた。

## 2. ポーランド共和国への支援と記念碑設置…3月、7月

東京2020オリンピック競技大会のホストタウン事業に関わった方々が発起人となり、ポーランドの避難民への救援活動を支援するための寄付金を募集した。寄付金は全国から寄せられ、12月1日時点で930万324円となった。

7月には、交流の記憶や感動を後世に引き継ぐため、笠置峡ポート・カヌー場駐車場に記念碑を設置した。



## 3. アウトドアの象徴として、根の上高原保古グランピングを整備…4月

コロナ後の観光の一つとして、市全体をアウトドアパークとし地域を活性化するため、市アウトドアレジャー推進計画を策定。その拠点施設として、地方創生拠点整備交付金を活用し、根の上高原保古グランピングを整備した。焚き火や地元食材を活用した料理、自然体験が魅力で、夏の来場者数はコロナ前と比べて約1.5倍にまで上り、売上は倍増した。



## 4. SDGsのゴールに向けた取り組みを開始…5月

3月15日、官民連携して全中学校を対象にSDGs講演会が行われた。3月23日に「ゼロカーボンシティえな」宣言を行い、5月20日には内閣府からSDGs未来都市、自治体SDGsモデル事業に選定された。食を通じて、持続可能な未来に向けた取り組みを進める。今後も市全体でSDGsに取り組むため、市SDGs推進協議会を立ち上げる。



## 5. 新たな移動手段を導入し、交通ネットワークを構築…6月、8月、10月

駅周辺の移動の利便性と回遊性を向上させるため、6月からまちなか巡回バスの運行を開始した。そのバスを補完する目的で、8月からはシェアサイクル事業を開始した。さらに10月、電話窓口とウェブサイトの2本立てで移動に対する困りごとを解決する交通コンシェルジュを開設。移動しやすい環境を整備した。



## 6. 未来に向けた基盤整備が始まる…6月、10月

6月7日、大井町～武並町間約5.9キロメートルのリニア中央新幹線長島トンネル新設工事の安全祈願式が行われた。県内のトンネルでは5番目の着工となった。現在、中央新幹線日吉トンネル（武並工区）ほか新設工事のうち、高架橋工事も着手された。

国道19号瑞浪恵那道路は、10月30日に恵那工区4.3キロメートルの着工式が行われ、全区間で工事が始まった。



©Central Japan Railway Company. All rights reserved.

## 7. 恵那の「食」を元気にするイベント

朴葉寿司プロジェクトによる朴葉寿司まつり、みのじのみ祭り祭での五平ロード、恵那笠置山栗園による大収穫祭、全12回の発酵の学校、くしはらへぼまつり、恵那青年会議所による栗フェスなど、恵那の豊かな食をテーマにしたさまざまなイベントが開催され、多くの人出でにぎわった。



## 8. 全国山城サミットと地域の催しでにぎわう…10月

市内に65カ所もの山城をもつ本市で、10月22日、23日、第29回全国山城サミット恵那大会が開催された。初日は恵那文化センターでパネルディスカッションなどが行われ、2日目は岩村町と明智町の山城を舞台に、両地域の実行委員会によるイベントが開催された。2日間で全国から約2万2000人の山城ファンが訪れ、大変にぎわった。



## 9. WRC世界ラリー選手権が開催される…11月

WRC世界ラリー選手権第13戦が、ラリージャパンとして愛知県と岐阜県を舞台に開催された。2010年に北海道で開催されて以来12年ぶりの日本開催となった。本市もコースの一部となり、観戦エリアとリエゾンを合わせ、全国から約2万人のファンが訪れた。



## 10. 嚶鳴フォーラム in 恵那を開催…11月

11月18日、19日の2日間、佐藤一斎生誕250年記念嚶鳴フォーラム in 恵那2022が開催され、ふるさとの先人の学びを生かす全国11自治体が、活動発表を行った。公開イベント「子ども嚶鳴フォーラム」では5市町の小中学生による発表があり、ゲストの俳優鈴木亮平さんらが子どもたちの発表にコメントを添えた。



### (その他のニュース)

#### ・ 議場が改修工事でバリアフリーに…2月

扉や壁などに地元産ヒノキ材を使用するとともに、天井の耐震対策や床の段差解消、通路へのスロープ設置などを行い、バリアフリーの議場となった。誰もが市議会へ参加できる環境が整った。

#### ・ かんぼの宿恵那の活用について検討委員会が最終報告…3月

日本郵政株式会社が譲渡するかんぼの宿について、日本郵政から市が取得し、取得価格と同額で新会社に譲渡することなどをまとめた最終報告書が、かんぼの宿恵那活用検討委員会から提出された。現在交渉が重ねられている。

#### ・ 恵那未来キャンパス構想が完成…3月

市サテライトキャンパスあり方検討委員会で検討してきた恵那未来キャンパス構想が完成した。地域と教育機関をつなぎ、多様な学びの場を新しく創出することで市の将来を担う人材を育てる。

#### ・ ごみ処理の広域化に向けて中津川市と基本合意書を締結…3月

処理施設が耐用年数を迎える10年後を見据え、ごみ処理の広域化と集約化を図る協議を始めるため、中津川市・恵那市ごみ処理広域化の推進に関する基本合意書を締結した。

#### ・ 高校生までの医療費が無料に…4月

中学生までだった子ども医療費助成の対象を高校生（18歳を迎えた年度末）までに拡大、子どもを安心して産み育てることができる環境づくりを充実させた。

#### ・ 市プレミアム付き商品券に電子商品券が登場…8月

消費者の利便性向上と市内事業者等のデジタル化推進を図るため、市プレミアム付商品券で、本年度初めて電子商品券が販売された。

#### ・ 恵那市教育環境等検討委員会を開催…8月から

児童生徒数減少等の状況を踏まえ、恵那市立中学校におけるより良い教育環境を検討するため、市教育環境等検討委員会を設置。本市南地区の望ましい学校教育環境に関すること検討している。

#### ・ 2022 健幸フェスタ in えなを開催…10月

生涯にわたって健康に関心を持ち、健康づくりに主体的に取り組めるよう、啓発や体験、情報提供の場として3年ぶりに開催した。